

令和7年3月21日

報道機関 各位

令和6年能登半島地震に伴い富山湾南部で発生した 「海底地すべり」堆積物調査の実施について

■ 概要

国立大学法人富山大学（以下：富山大学）、金沢大学、京都大学の教員からなる研究チーム（富山湾海底地すべり調査・研究グループ）は、令和7年3月26日から3月30日にかけて、富山湾南部において、金沢大学環日本海域環境研究センター所有の調査船「あおさぎ」を用いた海底調査を実施します。同研究グループが、本調査に先立って実施した水中ドローン探査の結果、令和6年能登半島地震に伴い発生した「海底地すべり」の様子が明らかになりました（参考：[富山大学プレスリリース](#)）。水中ドローン探査により得られた映像では、「海底地すべり」が発生したと考えられる地点付近には、半固結した、陸源性砕屑岩からなる岩石ブロックや細粒物質が堆積している様子が観察されました。今回の調査では、これらの堆積物を採取し、崩壊土の物理化学的および力学的性質や、堆積物に含まれる生物種等を詳細に分析します。これにより、「海底地すべり」発生メカニズム、およびこれに起因する津波の復元と今後の予測精度向上に寄与することを目的としています。

つきましては、本件について取材・報道方よりお取り計らい願います。



写真1：調査船「あおさぎ」

■ 研究の背景

令和6年能登半島地震により発生した津波は、能登半島北部を中心に大きな被害をもたらし、北陸地方沿岸にも到達しました。中でも富山湾南部では津波の到達が異常に早く、こ

の到達の早かった津波の発生原因として富山湾南部における大規模な「海底地すべり」が指摘されています。また、地震直後の定置網の破損やカニ籠の喪失、シラエビの不漁などの漁業への影響も、「海底地すべり」がその要因である可能性がしばしば言及されています。

これまで、富山湾南部における「海底地すべり」は、主に、1) 音波探査による地震発生前後の海底地形の比較、2) 津波の波形記録を再現する「海底地すべり」の位置や規模の推定、によりなされてきました。「海底地すべり」は水中で起こる事象であるため、その痕跡を直接観察することは一般に困難で、令和6年能登半島地震時に発生した「海底地すべり」の規模や崩壊様式などについての一一致した見解は得られていません。

富山湾海底地すべり調査・研究グループでは、令和6年10月から12月にかけて、富山湾南部の神通川河口沖合および庄川・小矢部川河口沖合の2地域において水中ドローン探査を行い、複数の地点で「海底地すべり」痕跡の直接観察に成功し、崩壊堆積物や崩壊面の態様、および生物の生息状況などの実態を明らかにしました。今回の調査では、崩壊堆積物の採取を行い、その物理化学的特性および力学的特性、起源等について研究する予定です。

■取材対応

3月26日の出航前に、取材への対応時間を設ける予定です。取材を希望される場合は、3月25日17時までに、下記問い合わせ先までご連絡ください。

(日時) 令和7年3月26日(水) ※海況により日程を変更する可能性があります。

出航前 10:00~11:00 (船内撮影・調査機器の説明)

出航 11:00

(場所) 富山港 公共物揚場 (<https://maps.app.goo.gl/tdApW3NvSaATESVv6>)

【付記】

本調査実施にあたり、一般社団法人北陸地域づくり協会の第30回「北陸地域の活性化」に関する研究助成(令和6年度能登半島地震を契機とした追加助成)の助成金を使用する予定です。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学学術研究部都市デザイン学系

准教授 立石 良

TEL : 076-411-4894 Email : ryo@sus.u-toyama.ac.jp